

第34回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第34回全日本実業柔道個人選手権大会は、8月28～29の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で開催された。

男子8種目（7体重別と22歳未満の部）に496人、女子7種目116人の計612人がエントリーして連日4試合場で熱戦を展開した。



開会式であいさつする阿南惟正大会副会長

初日の開会式ではアテネオリンピックから帰国したばかりの実業団所属、内柴正人（旭化成）、横澤由貴（三井住友海上）、谷本歩実（コマツ）、上野雅恵（三井住友海上）、塚田真希（総合警備保障）、以上5選手が整列し、紹介されて大歓声を受けた。

第一日目、男子は66kg級の須藤英雄4段（ダイコロ）が3年ぶり2度目の優勝。60kg級の中野真太郎3段（セコム）と73kg級荒平佳也2段（了徳時学園）、81kg級の角地信太郎3段（旭化成）は、いずれも初優勝。22歳未満は地元御影工高出身の沼田康弘2段（東レ・滋賀）が20歳で初制覇した。女子は52kg級の岡崎綾子3段（創電社）と57kg級岩藤理恵初段（三井住友海上）がそれぞれ2連覇を果たし、48kg級は5月のアジア選手権優勝の北田佳世2段（ミキハウス）が初優勝を飾った。

最終日は男子90kg級で斉藤制剛3段（旭化成）が3連覇を決めた。100kg級柴田真2段（セコム）と100kg超級落合幸治3段（新日鐵・広畑）はそれぞれ初優勝を手にした。

女子も好選手の活躍が続いた。70kg級貝山仁美3段（三井住友海上）の2年ぶり2度目の優勝を始め、63kg級上野順恵初段（三井住友海上）は2年連続を飾った。78kg超級の薪谷翠3段（ミキハウス）と78kg級平岡麻美3段（平成国際大学柔道クラブ）は初出場初優勝だった。



アテネオリンピック代表選手



全国各地から出場した選手が集う開会式



開会式で歓迎のあいさつをする白井尼崎市長



選手宣誓する有川選手（了徳寺学園）

男子100kg超級 ”激戦を勝ち抜いた落合、決勝戦逆転一本勝ちで初V“

毎年優勝争いに絡む江上は、緒戦こそ延長戦ゴールデン・スコア方式での優勢勝であったが、その後次第に調子を上げ、得意の袖釣込腰を攻撃の中心として一本勝で勝ち上がった。河野との準決勝戦も一方的に攻めまくり、大内刈技ありの後、下がる河野を追い込んだので小外掛一本で5度目の決勝戦進出を果たした。

一方の落合は、大村、松山といった優勝候補を接戦の末、下して市川との準決勝戦に進出。開始早々の支釣込足効果で市川に先行されたものの、十分組合つての開始45秒右体落しが鮮やかに決まり一本勝で逆転。決勝戦初進出を果たした。

決勝戦は、江上の袖釣込腰の猛攻を防戦する展開。江上、指導1を奪った後、袖釣込腰で技あり、そのまま崩壊凝固に。「決まり」と思われたが15秒、落合何とかこれを解く。一本勝を狙う江上はなおも袖釣込腰を繰出し、落合は防御に終始。畳み掛けて江上が2分23秒強引な左大外刈に入った刹那、落合が江上の刈足を小外掛に右足を飛ばし、切返し気味に体を捨てると、江上背中から畳に沈む。落合、逆転の一本勝で初優勝を飾る。



優勝した落合選手
(新日鐵・広畑)

落合の話

決勝は、途中脳震盪でよくわからない時間があつた。

先に技有をとられたが、くつついていけばチャンスはあると信じて攻めた。

講道館杯では上位を狙いたい。

【成績】

- 優勝 落合幸治 (新日鐵・広畑)
準優勝 江上忠孝 (九州電力)
第3位 河野 誠 (旭化成)
第3位 市川裕治 (京業ガス)

▽準々決勝

- 江上 大外刈 古田 (セコム)
○河野 優勢勝 永田 (大阪府柔道整復師柔道連盟)
○市川 小外掛 工藤 (総合警備保障)
●落合 優勢勝 松山 (旭化成)

▽準決勝

- 江上 小外掛 河野
○落合 大外刈 市川

▽決勝

- 落合 大内返 江上

男子100kg級 ”新人柴田、大外刈を見事に返して、初出場初優勝を飾る“

今春、実業団入りした新人柴田は、序盤戦の2試合こそ接戦となったが、その後は内股、背負投と大技を繰り出して勝ち進む。準決勝戦、組み手争いから開始55秒、川波が体勢を崩した所、逃がさず左内股で一本を奪い、初出場初決勝戦進出を果たす。

一方の昨年準決勝戦で涙を飲んだ大金は、荒削りな柔道ながら豪快に一本勝ちを重ねる。近藤との準決勝戦は、払腰効果で先攻された後、反撃に転じ大内刈有効で挽回。その後も積極的に攻め続け、3分48秒、後ろに下がる近藤を押し込みながら場外際で右払巻込に巻き込めば、近藤の体は大きな弧を描き畳に沈む。大金、豪快な一本勝で決勝戦初進出。

決勝戦は、共に右組みの両者、力強い大技の攻防で見応えのある一戦となった。試合中盤の2分13秒、大金が強引に大外刈に出た所を、柴田が大金の刈足を跳ね上げ、大きく宙に浮いた大金の体を右手で抑え、体を大きく開くと、大金もんどりうって背中から畳に落ちる。柴田、見事な一本勝で初出場初優勝を果たす。柴田、今後の活躍を予感させる大活躍であった。



優勝した柴田選手
(セコム)

柴田の話

裏投げは得意技の一つで、母校での練習を積んできた。体重は3kgの減量だったので楽に落とせた。特に今回は講道館杯への調整のつもりだったが、出るからには優勝しようと思っかけていた。

【成績】

- 優勝 柴田 真 (セコム)
準優勝 大金良二 (タイコロ)
第3位 川波慎太郎 (九州電力)
第3位 近藤秀作 (日本道路公団)

▽準々決勝

- 川波 優勢勝 小嶋 (総合警備保障)
○柴田 背負投 竹下 (日本道路公団)
○近藤 優勢勝 近野 (総合警備保障)
○大金 優勢勝 繁昌 (旭化成)

▽準決勝

- 柴田 内股 川波
○大金 払腰 近藤

▽決勝

- 柴田 裏投 大金

男子90kg級 ”斉藤、多彩な技を繰り出し、三連覇の偉業達成“

大会二連覇中の旭化成斉藤は、多彩な技を繰り出し危なげなく勝ち進む。ここまですべて一本勝で勝ち上がった絶好調の高橋との準決勝戦は、右の相四つの組み手から激しい内股の攻防が続き、共に効果一つを奪うも引分ける。引き続きゴールデン・スコア方式での延長戦に入り、開始42秒、斉藤が場外際で放った払腰が技ありと宣告され、その時点で試合終了、斉藤4度目の決勝進出。

一方、「立ってよし、寝てよし」のオールラウンドな技で一本勝を重ねて来たセコム齋藤の準決勝戦は、左右のケンカ組み手の小川と対戦。開始早々双方に指導1が与えられた後、1分30秒、齋藤が小川の太外刈を裏投で返し、連続一本勝で決勝戦初進出を果たす。

「さいとう」同士の決勝戦。序盤はケンカ四つで激しい組み手争いの両者に指導1が与えられる。その後の1分30秒、セコム齋藤が払腰に入りバランスを崩した所を、旭化成斉藤が両手刈で技ありを奪う。仕切り直しの1分41秒、旭化成斉藤が右太内刈で低く鋭く刈り込めばセコム齋藤は仰向けに倒れ見事な一本。旭化成斉藤が三連覇を一本勝で飾る。



優勝した斉藤選手
(旭化成)

斉藤の話

練習はみっちりやってきた。練習で左足首を少し痛めたが、技術より気持ちで負けないように心掛けた。今日も先に取られたけれど納得できる結果を出せて良かった。オリンピックで泉(明治大・旭化成入社予定)が銀メダルを取った活躍がかなり刺激になった。

【成績】

- 優勝 斉藤制剛(旭化成)
準優勝 齋藤純平(セコム)
第3位 小川貴則(総合警備保障)
第3位 高橋徳三(新日鐵・広畑)

▽準々決勝

- 斉藤 朽木倒 雑賀(了徳寺学園)
○高橋 袈裟固 松岡(了徳寺学園)
○齋藤 小内刈 高橋(東京消防庁)
○小川 優勢勝 軽部(了徳寺学園)

▽準決勝

- 斉藤 優勢勝 高橋
○齋藤 裏投 小川

▽決勝

- 斉藤 大内刈 齋藤

男子81kg級 ”角地、激戦を勝抜き、一本勝で嬉しい初V“

最多エントリー階級、激戦の81kg級。

栗栖は、緒戦となる2回戦の不戦勝の後、苦しみながら準決勝戦に駒を進めた。ところが、準決勝戦の相手石橋が準々決勝戦で右腕を負傷棄権し、労なくして決勝戦進出という幸運に恵まれる。

対する角地は、徐々に調子を上げ、準々決勝で大学の後輩、新人鈴木を送り足払い一本で退け、準決勝に駒を進めた。強豪坂本との準決勝戦は、両者技ありの応酬の後、残り45秒、鮮やかな内股で一本勝し、決勝戦初進出を果たした。

栗栖対角地の決勝戦は、序盤戦は、栗栖が右組みから体落とし、角地左組みから内股を窺う展開。1分25秒に栗栖に指導1が与えられた直後の1分36秒、角地、場外付近まで追い込んでの左太外刈が見事に決まる。角地、激戦のこの階級を勝抜き、準々決勝以降の3試合を全て異なる技で一本勝を奪うオールラウンドなチャンピオン。嬉しい初V。



優勝した角地選手
(旭化成)

角地の話

今回はどうしても負けたくなかった。中村監督兄弟から一戦ごとにアドバイスしてもらい常に優勝を意識して戦った。決勝は組んだ瞬間「これはイケル!」と思い、思い切った太外刈りに入ったら上手く掛かってくれた。延岡の練習環境は非常に良いので大いに社名を広められるよう今後も頑張っていく。

【成績】

- 優勝 角地信太郎(旭化成)
準優勝 栗栖 健(オフィスコーポレーション)
第3位 石橋剛士(旭化成)
第3位 坂本道人(タイコロ)

▽準々決勝

- 栗栖 優勢勝 後藤(タイコロ)
○石橋 優勢勝 竹田(セコム)
○角地 送足払 鈴木(了徳寺学園)
○坂本 優勢勝 丸山(セコム)

▽準決勝

- 栗栖 棄権 石橋
○角地 内股 坂本

▽決勝

- 角地 太外刈 栗栖

男子73kg級 ”荒平が昨年の覇者松原を決勝戦終盤に逆転し、初V“

消耗戦を勝ち上がった松原は昨年の覇者。準々決勝で小見川を技ありで下して、法領田との準決勝戦。両者、指導1で進んだ残り時間15秒、松原、大内刈で有効を奪い、2年連続決勝戦進出。

かたや、昨年準決勝戦で松原に一敗地にまみれ3位に泣いた荒平は、準決勝戦まで一本勝が4試合と、消耗少なく勝ち上がる。準決勝戦は、荒平が大内刈、小内刈、小外刈と足技で秋丸を果敢に攻め、3分5秒、釣込み腰一本勝で決勝戦進出を果たす。

決勝戦は、昨年準決勝戦での一本勝で雌雄を分けた両者の対戦となった。松原、釣込み腰、荒平、背負投と技の応酬が続くも、決め手なく時間が経過。中盤の2分12秒、松原が釣込み腰で効果の後、消極的姿勢になり指導1を受ける。反転、松原再攻勢に転じ、3分48秒背負投で効果を奪い再びリード。しかし、その後は松原、疲労の色濃く荒平の反撃を許して大外刈で技ありを奪われる。更に残り11秒での場外注意が駄目押しとなり、松原万事休す。荒平、昨年の雪辱を果たし、嬉しい初Vを飾る。



優勝した荒平選手
(了徳寺学園)

荒平の話

これまでは大学3年（東和大）の正力杯日本学生体重別で3位になっただけなので、この大会を目標にしてきた。普段は日大や国学院で練習をしているが、最近足は怪我で一日2時間くらいしか練習できてなかった。優勝できてホッとしている。了徳寺学園の理事長と同郷ということもあり、良い環境の中で練習をさせてもらっている。

【成績】

優勝 荒平佳也（了徳寺学園）
準優勝 松原 豊（七尾中）
第3位 法領田康幸（国士舘柔道クラブ）
第3位 秋丸政利（大京フーズ）

▽準々決勝

○松原 優勢勝 小見川（総合警備保障）
○法領田 肩車 井上（東京フーズ）
○荒平 合わせ技 石村（総合警備保障）
○秋丸 優勢勝 斉藤（国士舘柔道クラブ）

▽準決勝

○荒平 釣込腰 秋丸
○松原 大内刈 法領田

▽決勝

○荒平 優勢勝 松原

男子66kg級 ”須藤、3年ぶり2度目の優勝を一本勝で飾る“

昨年の決勝戦で、階級を上げて参加したアテネ五輪ゴールドメダリストの内柴に敗れ準優勝に泣いた須藤、今年こそはと目を見張る活躍を見せ勝ち進む。篠崎との準決勝は、開始1分27秒篠崎の大外刈を返しながらの払腰で奪った技ありを守りきって決勝戦進出を果たす。尚、内柴は昨年のこの階級優勝を出発点に、五輪金メダルを掌中にした。

対する石川も、過去準優勝2度、3位3度の上位入賞常連で、今年こそは悲願の初優勝をとの意気込み。足技が冴えて堂々準決勝に駒を進める。準決勝の鳥入戦、奥襟引き手共にしっかり握った石川が開始42秒での大外刈一本で難なく決勝戦進出。

3年ぶりの両雄による決勝戦。3年前は須藤が石川を制して初出場初優勝を飾っている。共に絶好調で勝ち上がった両者。須藤左、石川右のケンカ組み手。激しい組み手争いを制した須藤が、1分33秒左内股を一闪、石川宙を舞って背中から畳に沈む。又も石川涙を飲む。須藤、決勝戦を一本勝で制し、3年ぶり2度目の優勝を手中に収める。



優勝した須藤選手
(ダイコロ)

須藤の話

山梨学園（出身校）や近くの近大で、次の目標や大きな望みを持たずに、ただ、ひたすら練習してきた。過去にもこの大会で優勝をしているが、優勝を意識しないことがリラックスできて良かったのかもしれない。

【成績】

優勝 須藤英雄（ダイコロ）
準優勝 石川正樹（東芝）
第3位 鳥入孝仁（近畿通関）
第3位 篠崎 悠（了徳寺学園）

▽準々決勝

○須藤 内股 秋本（了徳寺学園）
○篠崎 腕挫十字固 寺居（旭化成）
○鳥入 優勢勝 西野（了徳寺学園）
○石川 大内刈 明先（了徳寺学園）

▽準決勝

○須藤 優勢勝 篠崎
○石川 大外刈 鳥入

▽決勝

○須藤 内股 石川

男子60kg級 ”中野、昨年決勝戦敗退の雪辱を果たし、初V“

昨年この階級の決勝戦で、旗判定1対2の僅差で敗れた中野は、巧みな試合運びで準決勝戦へ。準決勝戦は今田との対戦。今田に効果で先攻された1分37秒、片襟背負で技ありを奪うと、その後も積極的に攻めまくり、3分55秒今田の足払いを燕返しで切って落とし、一本勝で2年連続決勝戦進出を果たす。

一方の佐々木は、全試合1本勝で勝ち上がり、田口との準決勝戦でも、開始1分過ぎまで指導1、巴投で有効を奪って試合をリード。3分過ぎには肩車で田口を担ぎ上げ、大きく背中から落とす豪快な一本勝で決勝進出する。

決勝戦は、佐々木が盛んに肩車を狙い、中野がこれをかわす展開が続く。2分4秒、佐々木に片襟の指導1。終盤疲労の色濃く、両者に指導。その後、反撃に転じた佐々木であるが、終了直前5秒ルールで更に指導が与えられる。中野、昨年の屈辱をはらす初優勝。攻撃の手数の多かった佐々木であるが、不用意な指導を重ね、自滅する形で敗れ去る。悔やみきれない敗戦となった。



優勝した中野選手
(セコム)

中野の話
去年決勝で負けとても悔しい思いをした。立ち技で投げる事も武器ではあるが、一本勝ちにこだわらず、ポイントでも勝てるよう練習してきた。優勝できて嬉しい。今後は講道館杯で一つでも上を目指して頑張りたい。

【成績】

優勝 中野真太郎 (セコム)
準優勝 佐々木伸次朗 (了徳寺学園)
第3位 今田一成 (自衛隊体育学校)
第3位 田口教継 (新日鐵・広畑)

▽準々決勝

○中野 優勢勝 明石 (総合警備保障)
○今田 小内刈 堀田 (自衛隊体育学校)
○佐々木 出足払 松本 (セコム)
○田口 背負投 漆畑 (東芝)

▽準決勝

○中野 合わせ技 今田
○佐々木 肩車 田口

▽決勝

○中野 優勢勝 佐々木

男子22歳未満 ”昨年準決勝戦敗退の沼田、捲土重来。念願の優勝を果たす“

昨年、この階級で優勝した永野に準決勝戦において内股すかし一本で敗れた沼田は、捲土重来を期しての登場。準決勝戦第1試合、沼田と松原との対戦。左右のケンカ組み手で引き手が取れず、1分55秒に両者指導1。その後も技の出ない松原に3分57秒指導2が与えられ、そのまま時間。沼田決勝戦進出を果たす。

一方、接戦を制して準決勝戦第2試合に進んだ桑原は、丸峯を2分45秒、大外刈効果でリードを奪う。その後3分12秒、丸峯が前に出てくる刹那の背負投で一本を奪い、決勝進出。

決勝戦。共に右組の両者。沼田は内股、払い巻込み、桑原は足技での攻防。2分31秒、沼田が放った強引な払い巻込みが技ありとなり、そのまま崩壊装束固に固める。20秒後、2分53秒にブザー。沼田、念願の優勝を一本勝で決める。



優勝した沼田選手
(東レ・滋賀)

沼田の話
この1年は、優勝を目標に練習してきた。先輩達からは「もっと闘志を前面に出せ、大人し過ぎる!」と言われてきた。今後の目標は伝統あるチームで周囲は強い人ばかりだが、東レ・滋賀のレギュラーになる事。交代勤務の仕事ではあるが来年100kg級に出場し上位を目指したい。

【成績】

優勝 沼田康弘 (東レ・滋賀)
準優勝 桑原隆将 (十全会・十全病院)
第3位 松原亮太 (十全会・十全病院)
第3位 丸峯龍勝 (日本通運)

▽準々決勝

○沼田 合わせ技 菅原 (羽曳川体育会)
○松原 反則勝 諸橋 (セコム上信越)
○丸峯 袖釣込腰 児玉 (新日鐵・大分)
○桑原 上四方固 藤原 (新日鐵・大分)

▽準決勝

○沼田 優勢勝 松原
○丸峯 背負投 桑原

▽決勝

○沼田 合わせ技 桑原

女子78kg 超級 ”本大会初出場の薪谷、敵なし。堂々の初V“

昨年優勝の小松崎は、緒戦は引分け、ゴールデン・スコア方式による延長戦での効果による決着という辛勝となったが、続く準決勝戦、田島との対戦は開始早々すくい投で有効の後、45秒足払い有効で崩し、そのまま横四方固で押さえ込み一本で決勝進出。

かたや、昨年実業入りした薪谷は、膝の故障のため1年間離伏の時を経て、本年から実業柔道大会登場となった。緒戦を合わせ技一本で制し、続く準決勝戦は、序盤中野を攻めあぐねながらも2分6秒小外掛効果で崩し、そのまま縦四方固一本。予定通り決勝戦に進出。

小松崎対薪谷の対戦となった決勝戦は、2階席から小松崎への大声援が飛び交う中、薪谷の足払い、一本背負等の攻撃を小松崎がかわず展開となった。薪谷が小松崎を攻めあぐねているように見えた1分44秒、組み際薪谷が小外掛に左足を飛ばすと、小松崎はたまたま横転し、技ありが宣告される。そのまま上四方固に押さえ込み、合わせ技一本。薪谷、多少てこずりながらも、すべて一本勝、危なげなく初出場初優勝を飾る。



優勝した薪谷選手
(ミキハウス)

薪谷の話
釧路の全柔連強化合宿の後、右膝に水がたまり、左膝半月板も痛めたため練習不足だったが、この大会に出る事は決めていた。オリンピックで塚田選手が金メダルを取った事で、私も初心に戻り挑戦したい。この優勝を励みに頑張ります。

【成績】

優勝 薪谷 翠(ミキハウス)
準優勝 小松崎弘子(自衛隊体育学校)
第3位 田島光留(東洋観光)
第3位 中野公洋子(セコム)

▽一回戦

○小松崎 優勢勝 木屋(ミキハウス)
○田島 不戦勝 江口(松前柔道クラブ)
○薪谷 合わせ技 横溝(協栄興産)
○中野 払腰 中井(日本エスポート)

▽準決勝

○小松崎 横四方固 田島
○薪谷 上四方固 中野

▽決勝

○薪谷 合わせ技 小松崎

女子78kg級 ”新人同士の決勝戦を制した平岡に初出場初優勝の栄冠“

昨年の皇后盃全日本女子柔道選手権大会の準優勝者で今年実業チーム入りした新鋭近藤は、準決勝戦で本大会決勝戦連続4度進出の栗原に27秒出足払いで効果を奪い、その後1分40秒に小外掛一本で決勝戦進出を果たす。

一方の平岡もクラブチームでの実業柔道初参加の新人。赤嶺との準決勝戦は、開始30秒寝技に持ち込んで、横四方固で押さえ込み。赤嶺19秒で逃れるも、平岡委細構わずなおも寝技で攻め続け、1分45秒再び横四方固に。そのままブザーとなり、決勝に駒を進める。

新人同士の対戦となった決勝戦は、共に右組の両者、組み手争いから両者技を繰り出すも決め手なく、1分20秒、動きが止まった所で両者指導1を受ける。その後も決め手なく技の出ない近藤に、2分35秒指導2が与えられる。その後も技のない近藤に指導3が与えられ、結局そのまま時間となり、平岡初Vの栄冠に輝く。



優勝した平岡選手
(平成国際大学柔道クラブ)

平岡の話
東京・足立区の私立潤徳女子高の頃は一人でコマツや警視庁に出稽古していた。去年、日本学生体重別3位に入り、やっと強化選手になれた。今年から学校職員になり環境も変わったけどコマツコツ型なので30歳くらいまでは続けて行きたい。

【成績】

優勝 平岡麻美(平成国際大学柔道クラブ)
準優勝 近藤悦子(タイコロ)
第3位 栗原美幸(コマツ)
第3位 赤嶺亜沙(ミキハウス)

▽準々決勝

○栗原 横四方固 吉村(十全会回生病院)
○近藤 優勢勝 岡田(三井住友海上)
○赤嶺 小外掛 道井(総合警備保障)
○平岡 不戦勝 松崎(コマツ)

▽準決勝

○近藤 小外掛 栗原
○平岡 袈裟固 赤嶺

▽決勝

○平岡 優勢勝 近藤

女子70kg級 “決勝戦常連の貝山、昨年の雪辱を果たし2度目のV”

昨年の覇者古賀は、本大会では体の切れが悪く、我慢の柔道を余儀なくされた。緒戦、ゴールデン・スコアー方式での延長戦の大内刈一本で、若手の梅上をようやく退ける。準決勝戦では中尾に攻められる展開が続いたが、2分32秒すくい投でようやく有効を奪い、そのまま上四方固一本で逆転勝ち、決勝進出を果たす。

かたや、貝山は決勝戦（過去5度進出）の常連選手。渡邊との準決勝戦では、内股、大外刈と攻め続け、指導3を奪って優勢勝ち、6度目の決勝戦進出。

昨年の両者の対戦は、準決勝戦において貝山の片襟指導1の最小ポイント差で古賀に軍配が上がっている。さて、今大会は決勝戦での再対決。共に左組み手の両者、古賀は払腰、貝山は袖釣込み腰で攻める。両者相譲らずの攻防が続くも、古賀の内股がつぶれ畳に伏せつた3分27秒、貝山、古賀の左手首を決めて、脇を掬って縦四方固に入れば、古賀動きを制せられそのままブザー。貝山、昨年の仇を一本勝で返し、2年ぶり2度目の優勝を飾る。



優勝した貝山選手
(三井住友海上火災保険)

貝山の話

去年は準決勝で負けたので今年こそ狙っていた。決勝は実業団では2度目の対戦だが選抜体重別選手権などでは良く当たる。準決勝の渡邊（コマツ）戦では急速に伸びている強化選手なので特に集中した。アテネオリンピックでは上野さんの付き人をし、刺激を受けた。今回は逆になつてもらい力を出し切る事ができた。

【成績】

- 優勝 貝山仁美 (三井住友海上火災保険)
- 準優勝 古賀幸恵 (ミキハウス)
- 第3位 中尾春菜 (にしけい)
- 第3位 渡邊美奈 (コマツ)

▽準々決勝

- 古賀 大内刈 梅上 (タイコロ)
- 中尾 払腰 齋藤 (セコム)
- 渡邊 背負投 中澤 (ミキハウス)
- 貝山 優勢勝 森島 (セコム)

▽準決勝

- 古賀 上四方固 中尾
- 貝山 優勢勝 渡邊

▽決勝

- 貝山 縦四方固 古賀

女子63kg級 “上野順恵、ゴールドメダリストの姉雅恵の眼前で二連覇達成”

上野は、3回戦で63kg級アテネの覇者谷本歩実の妹育実と対戦。アテネ五輪ゴールドメダリストの妹同士という時宜を得た注目の一戦。これを優勢勝で制して準決勝戦へ。新人根崎に対し、序盤体落で攻め、決まらぬとみるや中盤大内刈、大外刈と後ろへの技で攻め立てた。2分38秒、大外刈で技ありを奪い、続く3分59秒にも、同じく大外刈一本で決勝進出。

一方、吉澤は早田との今年実業入りの新人同士の準決勝戦を、引分けの後ゴールデン・スコアーによる延長戦で指導を奪っての決勝戦進出。

決勝戦は、両者指導1の後、1分12秒上野振り回し気味の支釣込み足で効果を奪う。その後も上野が体落しで盛んに攻める。吉澤も内股、巴投で反撃し、終盤両者の激しい見応えのある攻防が続く。残り22秒、ポイントを取られ反撃する吉澤の一瞬の虚を衝いた上野の片襟での大外刈が技ありとなり、そのまま袈裟固に押さえ込んで合わせ技一本。上野、姉雅恵の応援を得て、接戦を制し堂々の二連覇を達成する。



優勝した上野選手
(三井住友海上火災保険)

上野の話

妹対決では既に3、4回やっていて一度も負けていないので全く意識はしていなかった。

でも、吉澤さんには講道館杯と選抜体重別で効果負けをしている。3度目も負けたら来年の世界選手権（カイロ）はなくなると思っただけ！気持ちで臨んだ。ラストは攻められたが自分のペースを守り自分を信じ勝ちに専念した。

【成績】

- 優勝 上野順恵 (三井住友海上火災保険)
- 準優勝 吉澤穂波 (セコム)
- 第3位 根崎裕子 (ツクバ計画)
- 第3位 早田英美 (総合警備保障)

▽準々決勝

- 上野 優勢勝 谷本 (コマツ)
- 根崎 横四方固 植田 (大阪風林医療学院)
- 早田 優勢勝 益子 (白水製菓)
- 吉澤 小外掛 野村 (タイコロ)

▽準決勝

- 上野 大外刈 根崎
- 吉澤 優勢勝 早田

▽決勝

- 上野 合わせ技 吉澤

女子57kg級 ”岩藤、内股一閃。鮮やかな連覇達成“

昨年、決勝戦を開始早々の早業で優勝を果たした岩藤は、緒戦こそ攻めあぐねたものの、その後は順調に勝ち進む。新人吉成との準決勝戦は、開始早々矢継ぎ早に有効（内股）、技あり（小外刈）でリードを奪った後、吉成の反撃を余裕をもってかわし、決勝戦に駒を進めた。

対する園田対新人今井の準決勝第2戦は、園田の大内刈を、今井がすくい投で返すパターンを展開となり、園田の効果の先取点を今井がすくい投有効で逆転、その後園田が大内刈で再逆転するという攻守が入れ替わる目まぐるしい試合となる。終盤の3分12秒に大内刈技ありでリードを広げた園田が優勢で決勝戦初進出。

左右のケンカ組み手の両者の決勝戦は、岩藤が内股、小外刈で攻めるも、園田内股で切り返す攻防。技が止まった1分3秒、両者に指導1。1分55秒ようやく引き手を取った岩藤が思い切つて内股に跳ね上げれば、見事に決まり一本。岩藤二連覇達成。



優勝した岩藤選手
(三井住友海上火災保険)

岩藤の話
アテネでは横澤さんの付き人をし、この大会を目標に練習を積んできた。今日は付き人をしてもらいリラックスして試合に臨め、結果を出せてとても嬉しい。次の目標は来年の世界選手権代表になる事。

【成績】

- 優勝 岩藤理恵 (三井住友海上火災保険)
 - 準優勝 園田絵里 (肥後銀行)
 - 第3位 吉成麗子 (コマツ)
 - 第3位 今井留美 (北関東総合警備保障)
- ▽準々決勝
- 岩藤 優勢勝 竹林 (セコム)
 - 吉成 送襟絞 津野 (ダイコロ)
 - 園田 内股 中田 (ダイコロ)
 - 今井 優勢勝 林 (ダイコロ)
- ▽準決勝
- 岩藤 優勢勝 吉成
 - 園田 優勢勝 今井
- ▽決勝
- 岩藤 内股 園田

女子52kg級 ”岡崎、連続延長戦を切り抜け、52kg級でも二連覇の偉業“

今年から所属を替えた岡崎、過去に57kg級で二連覇を達成している。今年は2階級、二連覇という前人未到の記録に挑む。緒戦の2回戦不戦勝、3回戦を寝技一本で進出した準決勝戦は、元同僚の鍛冶との対戦。互いに引き手が取れないまま、岡崎やや優勢に進めるも両者ポイントなく引分け、ゴールデン・スコア方式の延長戦に。延長戦も岡崎優勢に進むものの決定打がなく、旗判定となる。旗は3本共、赤岡崎に上がり決勝戦に進出。

一方の、宝対鳴谷の準決勝戦も、互いに譲らず延長戦も引分け、連続旗判定に。赤2本上がった、際どい勝負は宝に軍配。

決勝戦は、昨年の覇者岡崎対一昨年の覇者宝との対戦となる。激しい攻防の末、共に効果1つを奪うも引分け、ゴールデン・スコアによる延長戦へ。1分55秒やや疲れが見えた宝が思い切つて右釣込み腰に入る所を、岡崎が後ろに返せば、宝尻餅をつく形で後ろに。時を措かず効果が宣せられ試合終了。岡崎、57kg級二連覇に続き、52kg級でも二連覇。本大会初めての偉業なる。



優勝した岡崎選手
(創電社)

岡崎の話
12月にミキハウスを退社し、1月からは東京・大塚の電気工事会社でパソコンなど事務をしながら主に日体大で練習してきた。宝さんとは去年の団体対抗で一度一本勝ちをしているが厳しい試合になると思っていた。勝つて嬉しい。今後も頑張っていきたい。

【成績】

- 優勝 岡崎綾子 (創電社)
 - 準優勝 宝 寿栄 (コマツ)
 - 第3位 鍛冶宏美 (ミキハウス)
 - 第3位 鳴谷彩子 (TOYO)
- ▽準々決勝
- 岡崎 横四方固 見玉 (にしけい)
 - 鍛冶 合わせ技 山崎 (明道館)
 - 宝 優勢勝 村上 (デンサン)
 - 鳴谷 内股 柿内 (自業警備サービス)
- ▽準決勝
- 岡崎 優勢勝 鍛冶
 - 宝 優勢勝 鳴谷
- ▽決勝
- 岡崎 優勢勝 宝

女子48kg級 ”本大会初出場の北田、実力を発揮し初V“

大井と新人中島との準決勝戦第1試合は、共に背負投の攻防の後、2分30秒に大井が大内刈で有効を奪う。終盤、中島の背負投を背負投で攻め返す展開が続くもポイントにならず、そのまま時間。大井が決勝戦進出。

48kg級で谷亮子に次ぐ実力の北田は本大会初出場。準決勝戦第2試合、序盤、北田は得意の背負投を繰出すも、この3月高校卒業の若い松下がことごとくかわす展開が続く。それではと、2分35秒北田が巴投で技ありを奪い、そのまま上四方固に移行し、2分9秒にブザー。北田、松下にやや手こずるものの順当に決勝戦へ。

決勝戦は、共に右組みの両者、背負投の応酬となるが、決め手なく引分け。北田の必殺の背負投も背の低い日本選手には効果が半減。ゴールデン・スコアー方式の延長戦に入り、37秒北田、大井の虚を衝き大内刈で刈り込めば、後方に重心のなかった大井は思わず後ろに倒れる。有効となり試合終了。北田、大井を攻めあぐねるもの危なげない勝利。予想に違わず初出場を初Vで飾る。



優勝した北田選手
(ミキハウス)

北田の話
大井さんとは初対戦だが出稽古では何度も練習している。決勝戦は大外を狙ったわけではないが無我夢中だった。この初優勝を弾みに頑張る。

【成績】

優勝 北田佳世(ミキハウス)

準優勝 大井麻里子(近代クラブ)

第3位 中島英里子(ミキハウス)

第3位 松下 渚(タカメティカル)

▽準々決勝

○大井 合わせ技 末成(白体大業友会)

○中島 一本背負投 上原(白率エースポト)

○松下 棄権勝ち 渡辺(白鷺講道部)ビズ

○北田 背負投 前川(白率エースポト)

▽準決勝

○大井 優勢勝 中島

○北田 合わせ技 松下

▽決勝

○北田 優勢勝 大井



100超級 落合 大内返 江上



100kg級 柴田 裏投 大金

熱戦風景 1



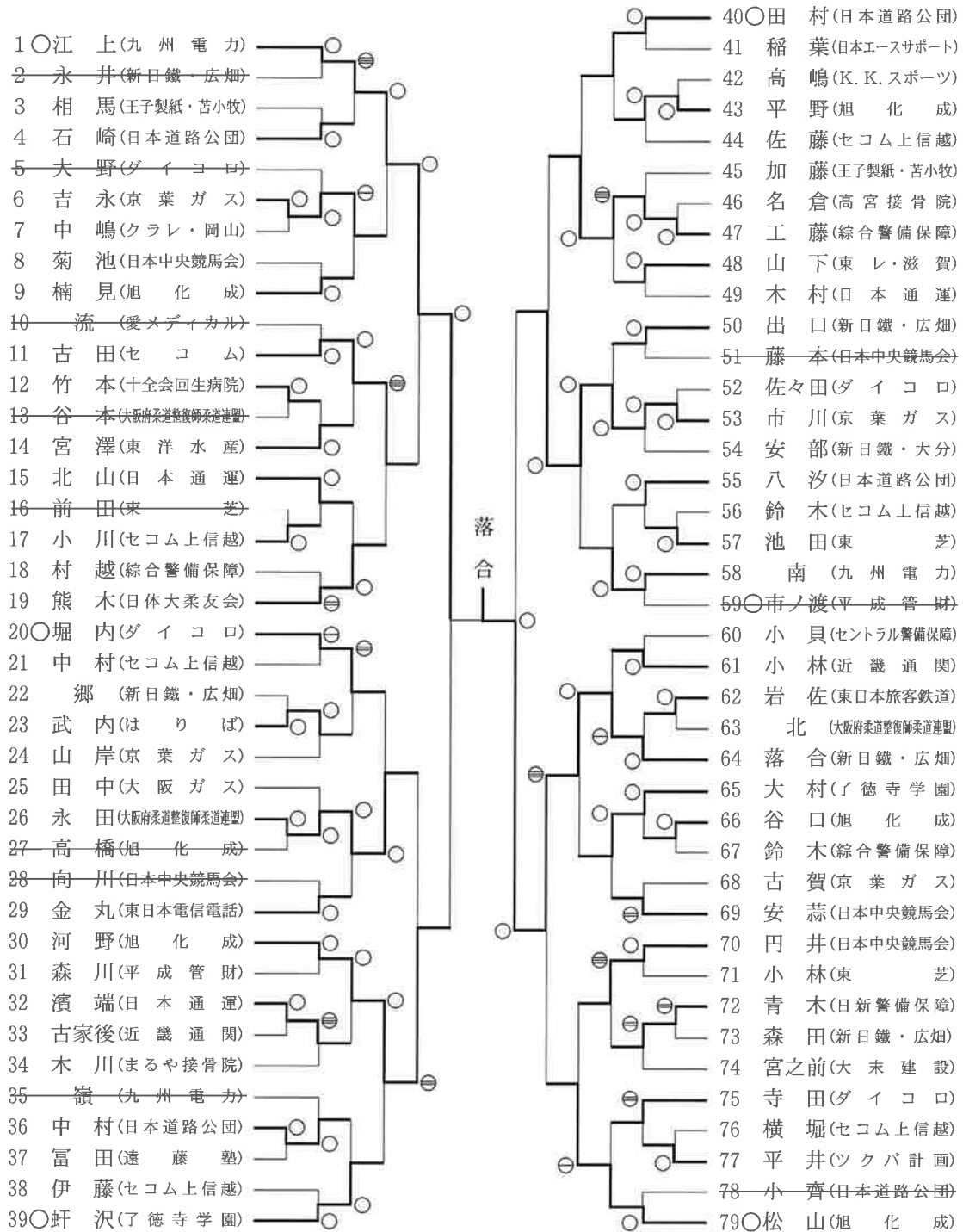
78kg超級 薪谷 合わせ技 小松崎



63kg級 上野 合わせ技 吉澤

成績表

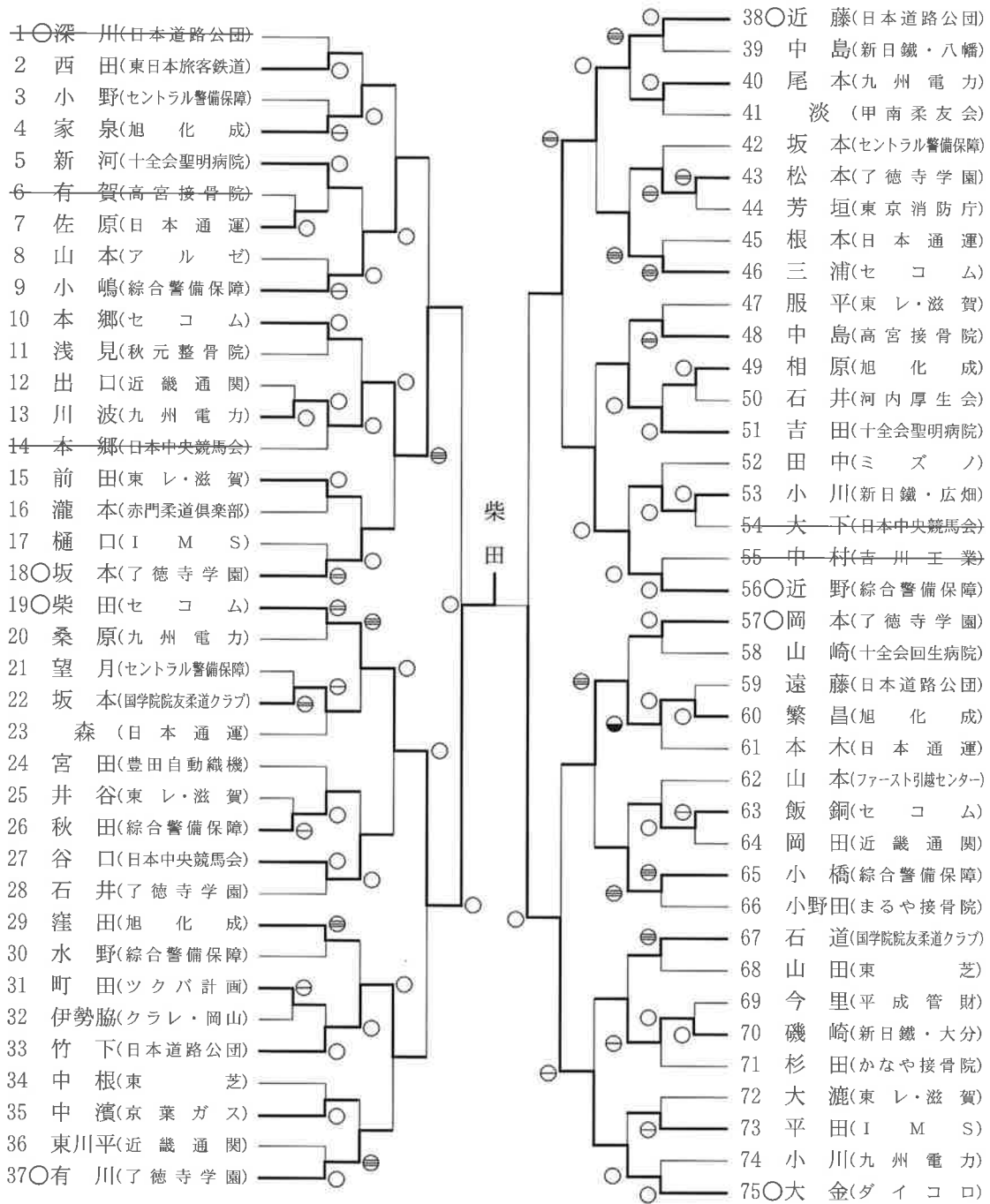
男子100kg超級(79名)



○印はシード選手

成績表

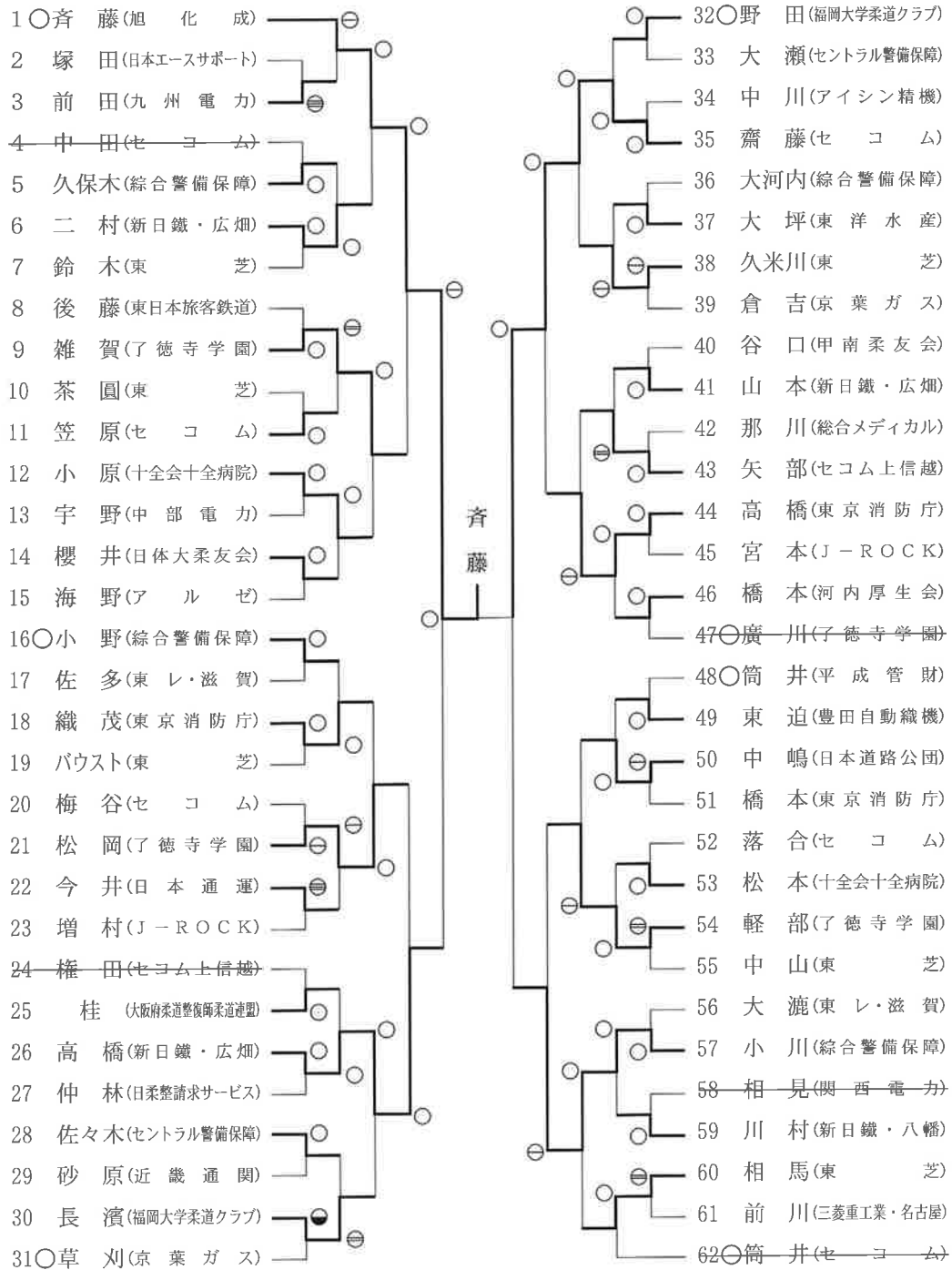
男子100kg級(75名)



○印はシード選手

成績表

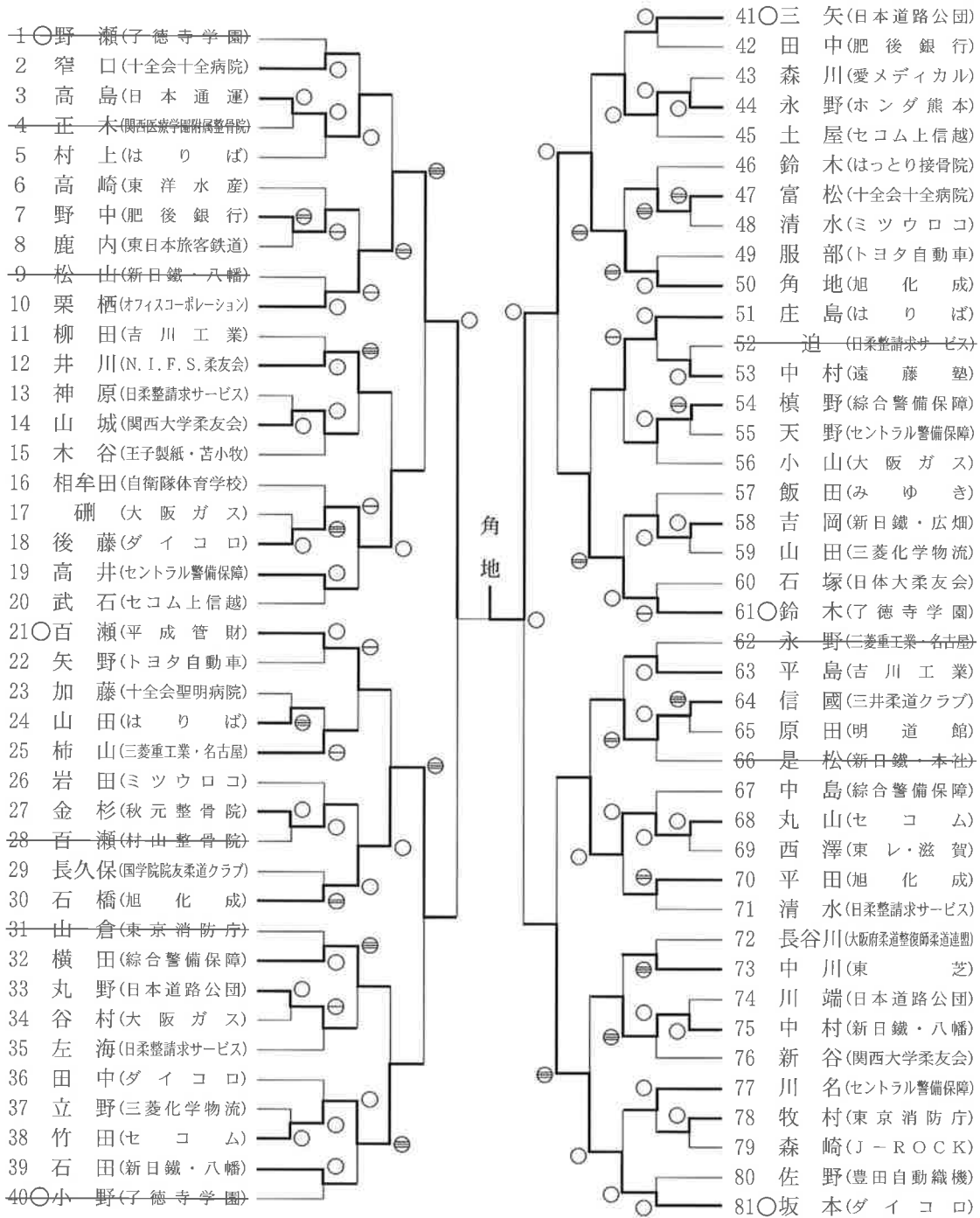
男子90kg級(62名)



○印はシード選手

成績表

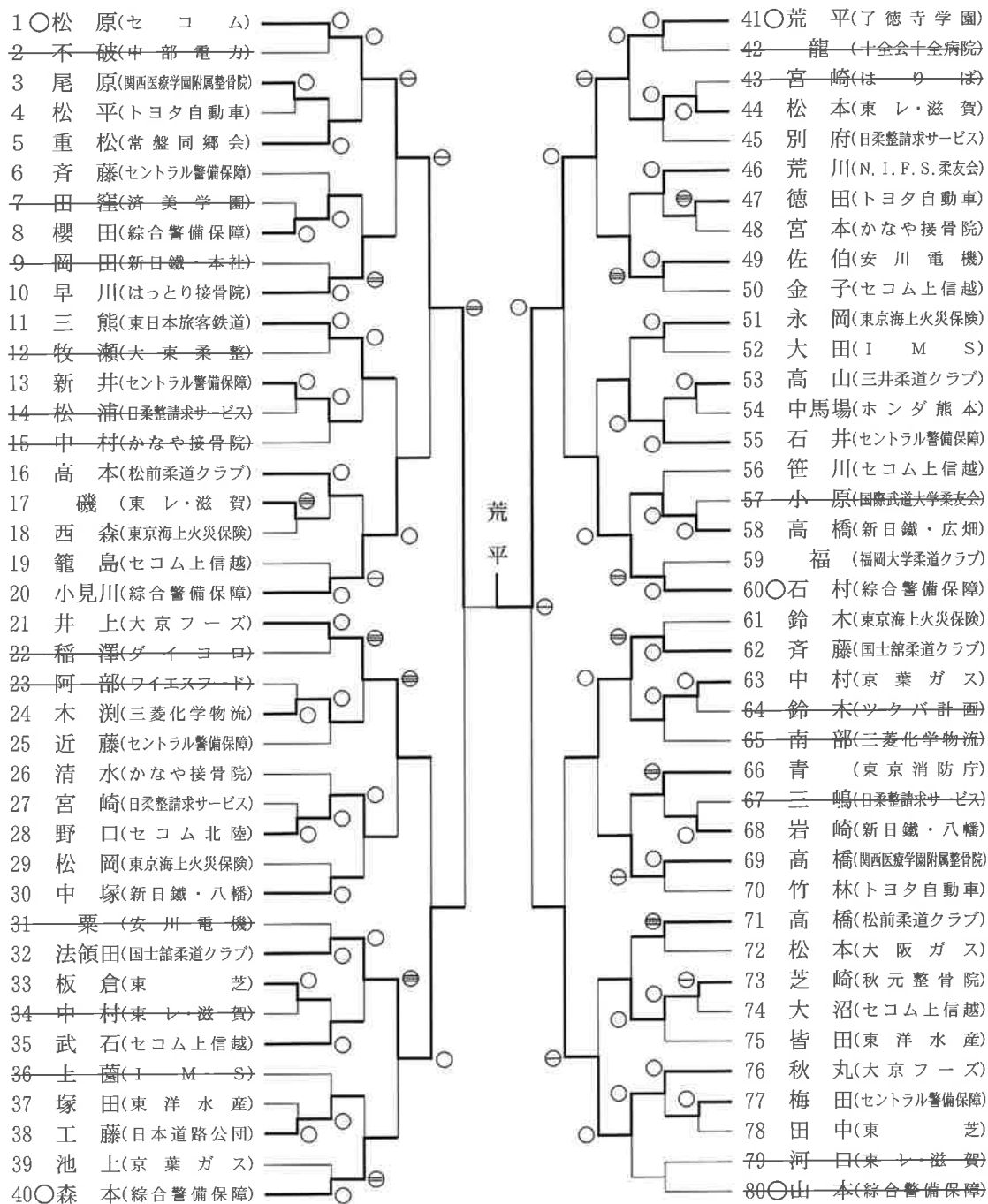
男子81kg級(81名)



○印はシード選手

成績表

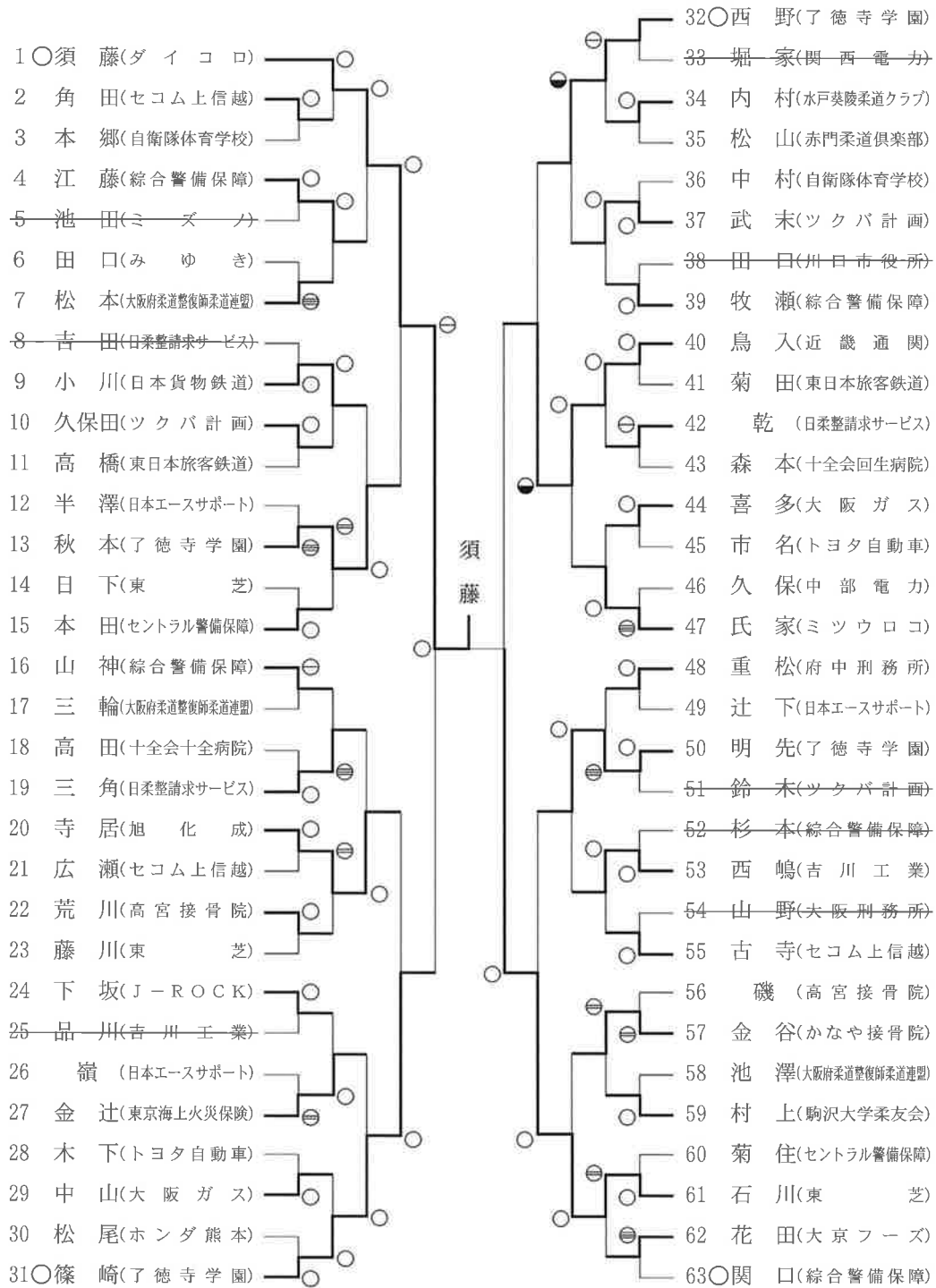
男子73kg級(80名)



○印はシード選手

成績表

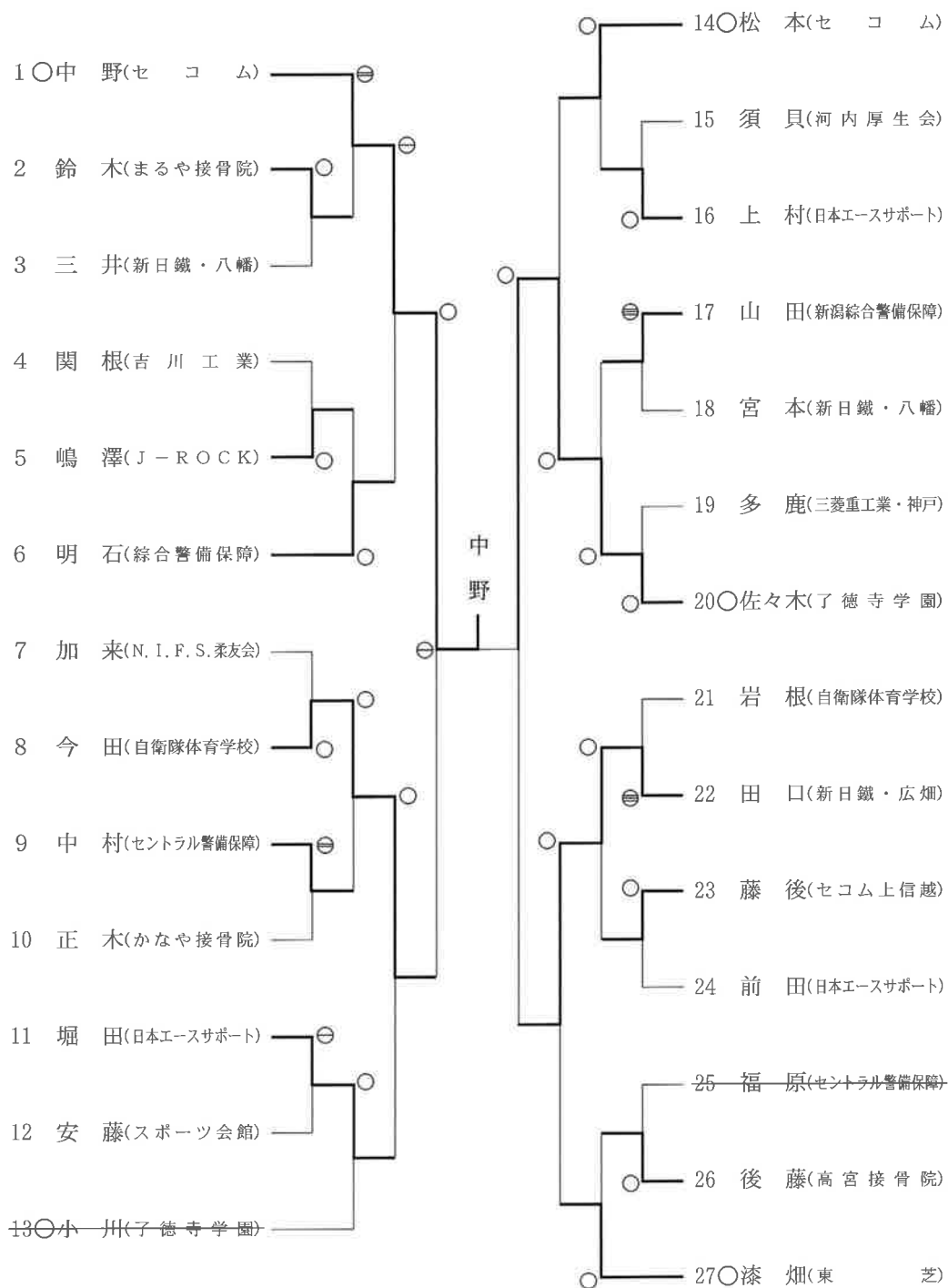
男子66kg級(63名)



○印はシード選手

成績表

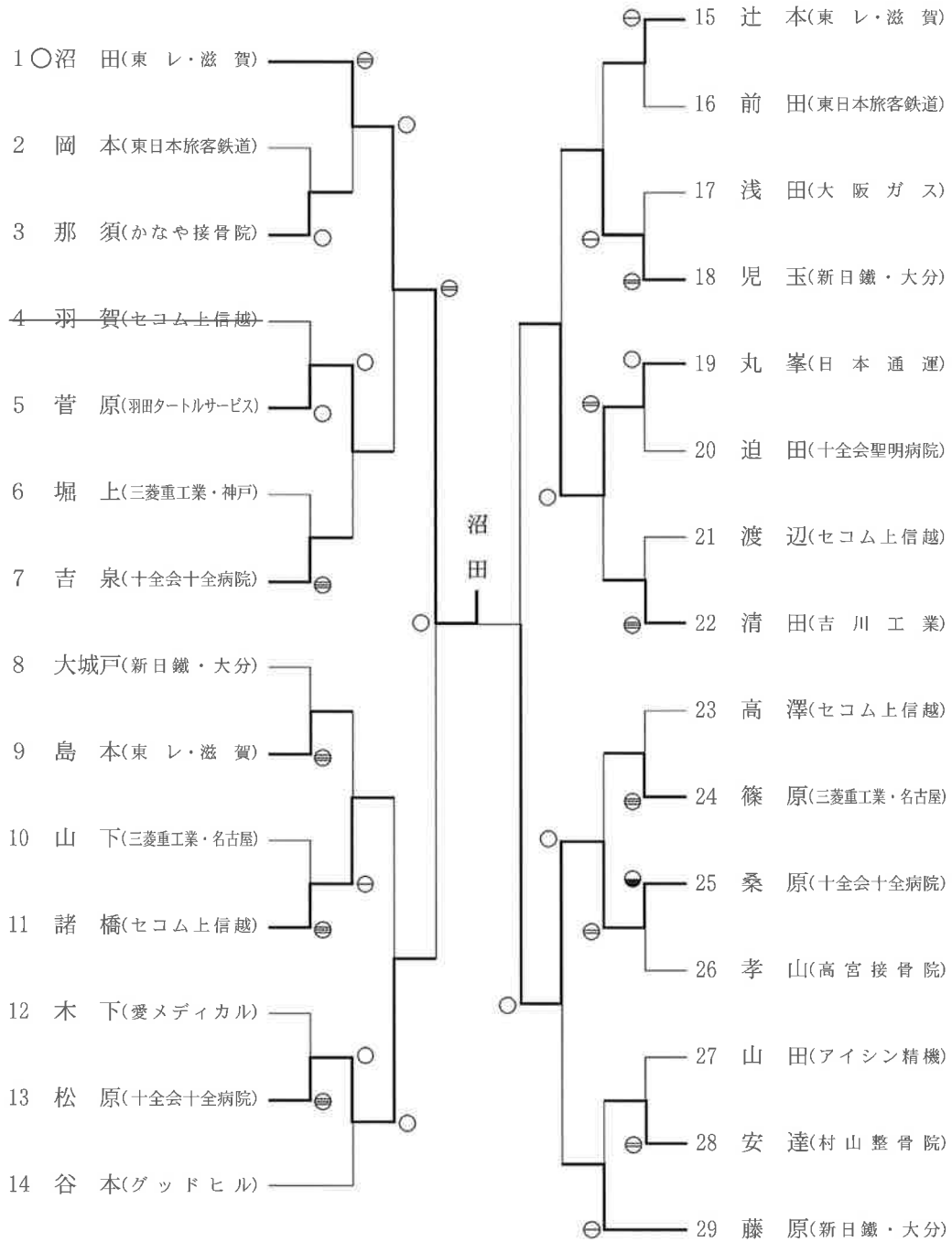
男子60kg級(27名)



○印はシード選手

成績表

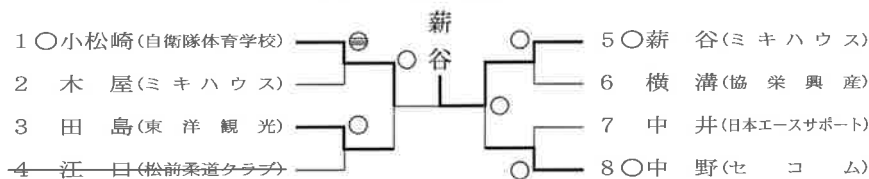
男子22歳未満(29名)



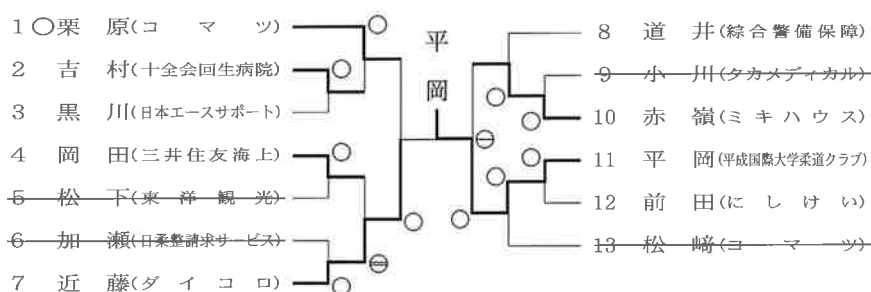
○印はシード選手

成 績 表

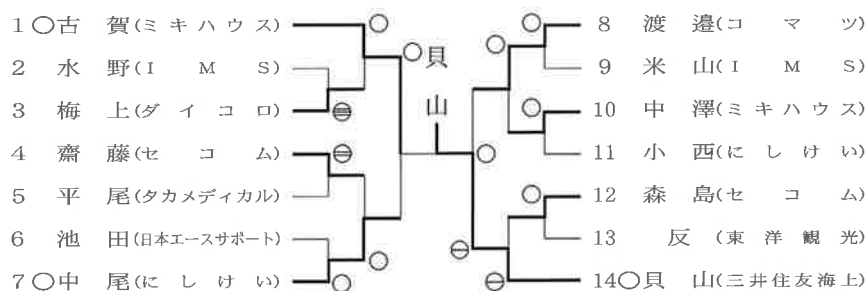
女子78kg超級(8名)



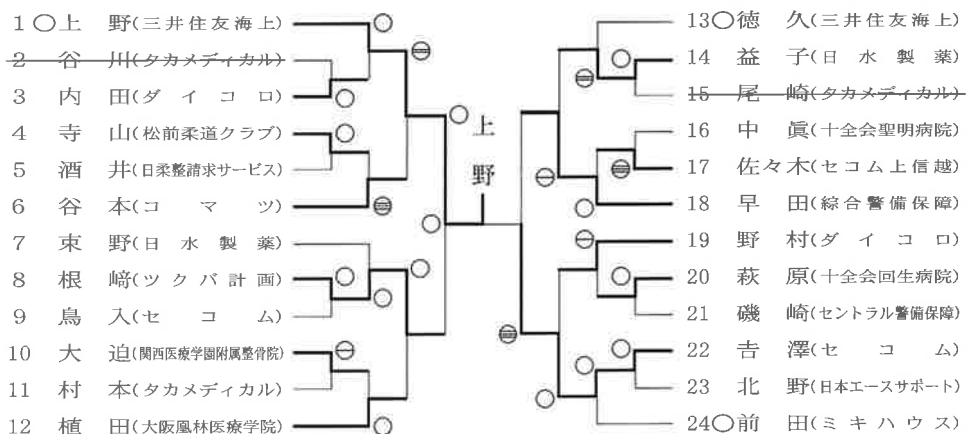
女子78kg級(13名)



女子70kg級(14名)



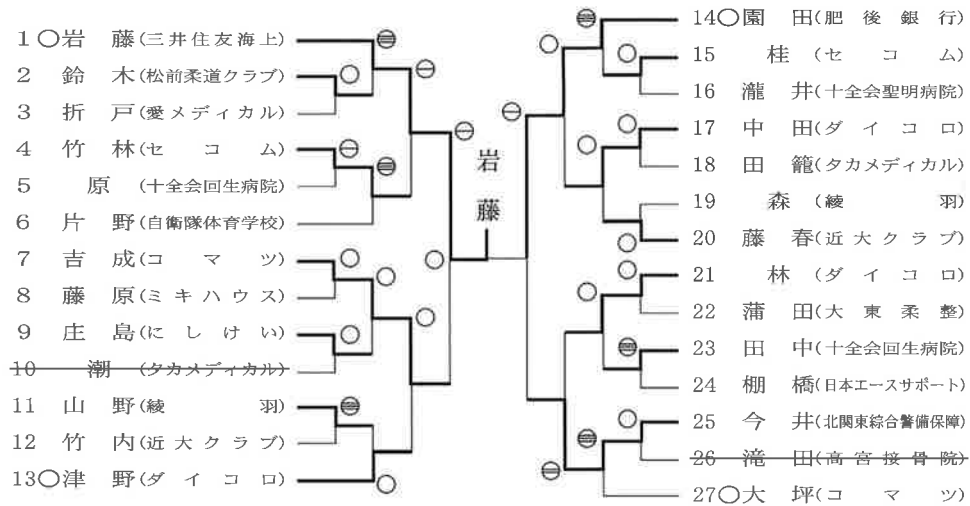
女子63kg級(24名)



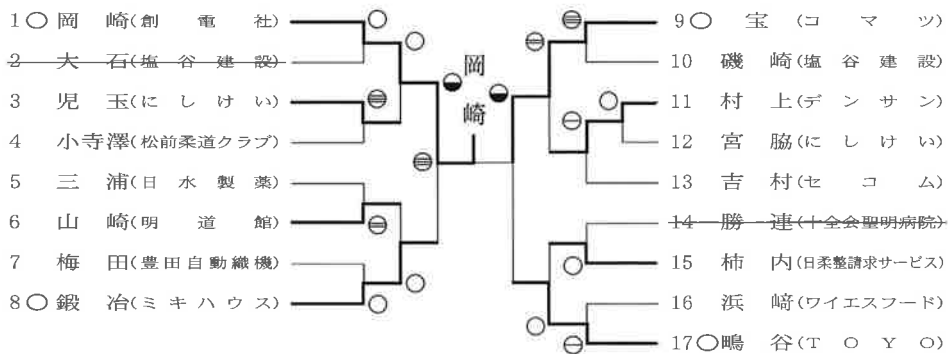
○印はシード選手

成績表

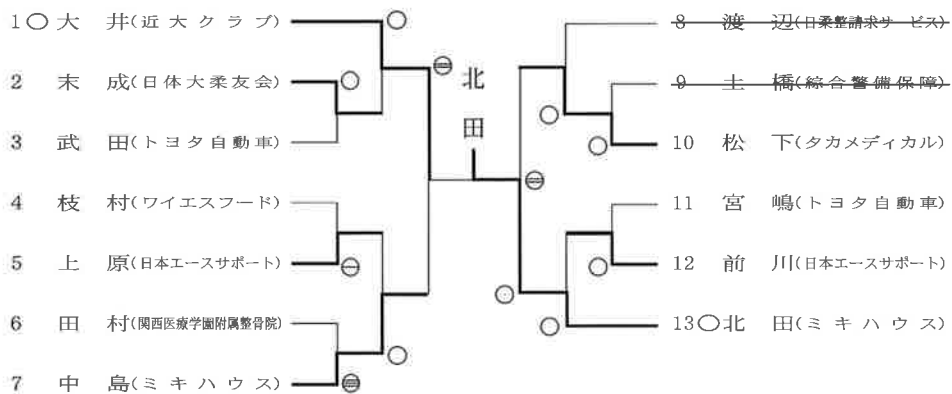
女子57kg級(27名)



女子52kg級(17名)



女子48kg級(13名)



○印はシード選手



57kg級 岩藤 内股 園田



90kg級 齋藤 大内刈 齋藤



52kg級 岡崎 優勢勝 宝



66kg級 須藤 内股 石川

熱戦風景 2

アメリカ国際柔道大会結果報告
(海外派遣事業)

平成16年度 海外派遣事業として、9月22日から29日の8日間、アメリカ・ラスベガスで開催されたアメリカ国際柔道大会に、主に個人選手権大会の優勝者で編成した、団長以下20名の日本選手団を派遣した。

大会は、アメリカ、カナダをはじめイギリス、ドイツ、女子トップクラス派遣の中国など男女合わせて26ヶ国、286名が参加し盛大に開催された。大会全体としては審判員のぼらつきが見られ、日本選手も苦戦する場面もあったが、素晴らしい技には盛大な拍手が送られ、曖昧な審判にはブーイングが起こるなど大会を大いに楽しむ雰囲気があった。

試合結果は、優勝7名、準優勝3名、3位2名で殆どの選手がメダルを獲得し、最優秀選手賞には落合幸治選手が選ばれた。残念ながら力を出し切れなかった選手や、勝てる試合を落とした選手もおり、今後の成長のための大きな糧となるものと思われる。

階級	選手名	会社名	成績
100kg超級	落合 幸治	新日本製鐵	優勝 (最優秀選手賞)
100kg級	柴田 真	セコム	3位
90kg級	齋藤 純平	セコム	準優勝
81kg級	角地信太郎	旭化成	準優勝
73kg級	荒平 佳也	了徳寺学園	5位
66kg級	須藤 英雄	ダイコロ	優勝
60kg級	中野真太郎	セコム	優勝
78kg超級	薪谷 翠	ミキハウス	優勝
78kg級	平岡 麻美	平成国際大学柔道クラブ	1回戦敗退
70kg級	貝山 仁美	三井住友海上火災	優勝
63kg級	上野 順恵	三井住友海上火災	優勝
57kg級	岩藤 理恵	三井住友海上火災	3位
52kg級	岡崎 綾子	創電社	準優勝
48kg級	北田 佳世	ミキハウス	優勝

発行日 2004年10月20日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸
 印刷 ダイコロ株式会社